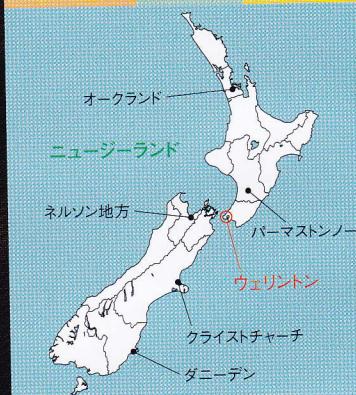


# 世界の酒場から——ウェリントン

## 自家醸造ビールを飲み比べ



ニュージーランドの北島の南端にある首都ウェリントンは風の街。秋から冬にかけては容赦ない、家をも揺らす強い風が吹く。一転して春から夏にかけては最高の季節、日差しが強くポカポカ暖かい上に、心地の良い風が町を通り抜ける。

この街の海辺の近くにフレッシュなクラフトビールが飲める、Hashigo Zake（はしひき）という隠れ家のようなニアパブがある。薄暗い地下に続く階段を降りると、そこはビール好きの集会所。チキンパイや枝豆をつまみながらビールをゴクゴクではなく、ゆっくり味わう。

カウンターに立つ十一本のタップから注がれるのは、新鮮なクラフトビール。おもしろいことに毎日銘柄が変わる。ひとつのみ樽が空になると、タップに別のビール樽を繋げる。ニュージーランドの地ビールの次が沼津の「ベアード」だつたり、カリフォルニアの「バレスボイント」だつたりする。もちろんボトルビールも、世界中から集めた手づくりのビールばかりだ。

こんな店だからスタッフも詳しい。ビールのニュースを誰よりも早く知っているうえ、自家製ビールもつくるようなマニアばかり。自家醸造は日本では違法だが、ニュージーランドでは大人の趣味としてポピュラーなもの。おもしろいビールをつくろうと、愛好家はあれこれ工夫する。自慢のビールを持ちよって、店で飲み比べパーティになることも珍しくない。

(Hashigo Zakeスタッフ 高木シゲオ)



薄暗い地下への階段、中から楽しそうな声が聞こえてくる



ウェリントンにあるケーブルカー終点からの町の眺め。  
空晴り、緑多い



世界中のクラフトビールが味わえる



タップから丁寧にクラフトビールを注ぐ。黒いキャップの男性が筆者

初めて見るビールに感動しているお客様